



「排泄ケアお役立ち情報をご案内中」

光洋

検索

http://www.koyo.jp



## IAD（失禁関連皮膚障害）を知ろう！

初夏の季節となりました。暑くなってくると皆さん気になりますよね？  
えっ？なにがって？それはおむつの中です！おむつを開けて発赤を発見した際、  
「<褥瘡かな？>」と思う方、「<おむつかぶれかな？>」と思う方それぞれいらっしやると  
思いますが、今号は最近話題の失禁関連皮膚障害

(Incontinence Associated Dermatitis：以下、IAD)について詳しくお話ししていきたいと思  
います。

### IADとは何か？

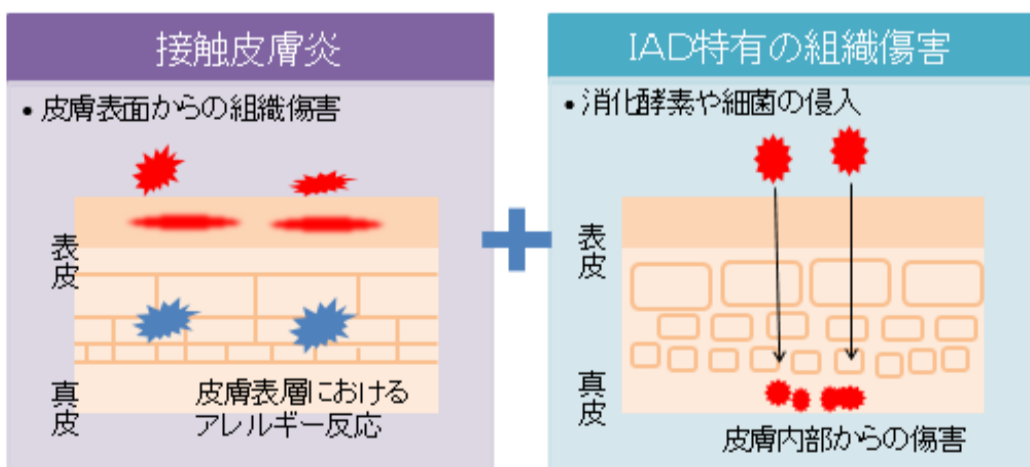
IADは、「尿または便への曝露に起因する皮膚損傷を表す。IADは、多大な不快感を生じさせ、治療は困難で時間を要し、高額な費用を生じさせる。」と国際IAD専門家委員会によって定義されています。これまでIADは、尿や便などの排泄物に長時間皮膚が曝露されることで生じる接触皮膚炎であると考えられていました。しかし、どんなに優しく洗っていてもスキントラブルが悪化してしまうことがありますか？実はこの状態がIAD特有の現象で、付着した排泄物による接触皮膚炎以外の皮膚障害が同時に起きていることを疑わなければならない状況なのです。

### IAD発生のメカニズム

IADは、失禁によりおむつ内で長時間あるいは繰り返し尿や便に曝露された皮膚が浸軟し、バリア機能が低下することにより、正常な皮膚では透過しないたんぱく質や便に含まれる消化酵素などの分子が真皮深層まで侵入することにより起こります。そしてさらなるバリア機能の低下や、毛細血管からの出血が生じます。そのほか、細菌が能動的に経皮侵入して組織内部で凝集塊となって周辺の組織を障害します。つまりIADでは、皮膚表面の接触皮膚炎だけでなく、それにプラスして皮膚内部から進行する組織障害も同時に起こっているのです(図1)。

【図1】

### IAD=接触皮膚炎+(IAD特有の)組織損傷



ここまで聞くと「褥瘡とどこが違うの？」と思うかもしれませんが、IAD発症の1番の原因は、**尿便失禁**です。褥瘡は失禁がなくても発生しますよね？これが1番の違いです。

また、IADは創縁が褥瘡と違い不明瞭で均一ではないことが特徴です。IADは目に見える表面だけでなく、内部からの組織損傷をも起こすため「発赤がみられた時にはすでに遅い！」とされます。となると「じゃあどうすればよいの？」と疑問に思ってしまうかもしれません。IADはその発生リスクを考えアセスメントを行い、予測的・予防的にケアを行うことが重要です(表1)。なぜなら、発赤がみられてから保護的なケアを行っても、内部ですでに組織障害が進行しているからです。予防のためのケアは「洗浄」「保湿」「保護」の3つ。

洗浄・・・皮膚のpHに近い弱酸性の洗浄剤を使用することが大切です。

1日に何度も洗うと皮脂成分が減少してしまい乾燥を招くので、洗浄は1日1回とします。

保湿・・・高齢者の場合は皮膚が乾燥傾向にあるため保湿も大切です。

乾燥した皮膚は外部からの有害な物質が侵入しやすく、皮膚感染症が起こりやすくなります。

保護・・・撥水効果のある保護剤を使用し、皮膚への排泄物からの刺激や浸軟を予防することが大切です。

今まで現場では当たり前だった「毎回の陰部洗浄」や「擦るような清拭」、「何でもかんでもワセリン」といったケアを見直し、その方にあった予防的スキンケアを行っていきましょう。

【表1】

### IADアセスメントのポイントのまとめ

- ・失禁がある(特に便失禁)
- ・おむつを使用している
- ・創縁は不明瞭で均一ではない
- ・広範囲に発現している
- ・皮膚が浸軟している

参考文献

安部正敏「たった20項目で学べるスキンケア」学研

エキスパートナース vol.33 No.15 照林社

エキスパートナース vol.34 No.1 照林社

一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会「排泄ケアガイドブック」照林社

国際IAD専門家委員会「ベストプラクティス原則 失禁関連皮膚炎：予防を促進する」Wound s International

## 洗浄と保湿、撥水と保護のスキンケアをだれでも簡単に！

### モイストバランス しっとりふきとりフォーム

泡で拭くだけで、かんたんキレイ

- ・トイレトペーパーでも拭き取り可能。
- ・保湿成分配合・弱酸性。モイスター効果とエモリエント効果でしっとりすこやかお肌へ。
- ・拭き取るだけで、洗い流しが不要。(※洗い流しての使用も可能)
- ・ふんわり・やわらか泡が汚れを包んでさっぱり落とします。

●500ml×6本



### モイストバランス スプレーコート

スグ乾き、汚れをはじく！

- ・お肌をこすらずスプレーするだけ。
- ・1プッシュで約10cmの保護膜を作り、お肌を刺激から保護。
- ・液ダレせずに、素早く乾き、お肌に密着。つっぱりません。
- ・片手で使えるトリガースプレータイプ。
- ・長時間撥水効果が持続します。(※清拭しても効果は落ちません。)

●45ml×6本 ●45ml×6本×6箱(36本)





# 介護老人保健施設 好日苑様

山口県防府市。日本三天神と称せられる学問の神様、菅原道真公を祀った防府天満宮、国指定名勝毛利氏庭園などを有する、歴史情緒あふれる街に、介護老人保健施設「好日苑」があります。

今回は、好日苑で行われた排泄ケア向上への取り組みと、その内容を「おむつコスト削減から排泄の自立へ」と題し、「第24回全国介護老人保健施設大会 石川in金沢」において発表なさるまでの経緯、さらにその後の取り組みについて取材しました。



## —全国介護老人保健施設大会での発表に向けた取り組み—

この取り組みを行う以前、好日苑では「おむつにかかるコストが非常に高い」、「おむつの選び方やあて方が適切ではない」、「夜間に頻回におむつを交換するためご利用者の安眠が確保されにくい」、「慢性的にスキントラブルが発生する」など、多くの課題を抱えておられました。

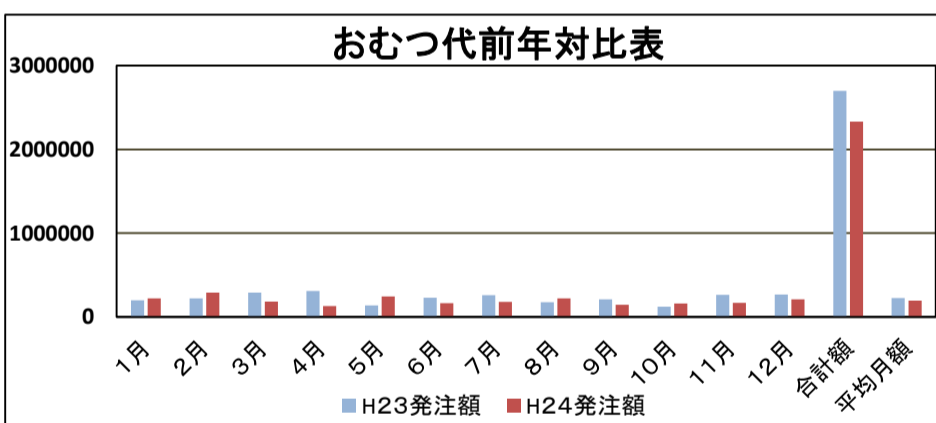
その状況をどうにか改善したいと、環境美化委員としてリーダーシップを発揮し、実行に乗り出されたのが手島課長と吉松介護主任のお二人です。株式会社光洋-ディスパースからも改善に向けた提案をさせていただき、まずは一部のご利用者様に対して、排泄状況の把握・尿量測定を実施。それに基づいてご利用様ごとに最適なおむつを選択し、さらに夜間のおむつの交換回数を見直しを図られました。加えておむつのあて方の統一化、発注の適正化といった多岐に渡る取り組みを実行し、最終的には全ての職員様を巻き込んで、施設全体に拡大されたのです。

この取り組みに伴った変化は目覚ましく、おむつにかかるコストの激的な削減を中心に、排泄ケアに関する課題の改善が大幅になされていきました。

そしてその過程や結果を全国介護老人保健施設大会で発表なさったことは、職員様の経験としても、施設の経営面に全員が目を向けるためにも、非常に貴重な機会であったと徳本施設部長はおっしゃいます。（表①）

加えて大きな成果となったのが、職員様のケアに対する意識が格段に高まったことでした。

（表①：全国介護老人保健施設大会の発表資料より）



## —ケアに対する意識の向上とおむつはずし—

そのような機運に伴って始まったのが、おむつを最小限のものに切り替えてゆく、「おむつはずし」への取り組みです。

おむつを切り替える際、排泄物がもれやすくなるのではないかとご利用者様や職員様が不安を感じられるケースは少なくありません。さらに切り替えによって実際にもれが生じると、おむつはずしに対する職員様の不安感は一層強くなってしまいます。その不安はご利用者様自身の不安や、切り替えへの抵抗感にもつながります。

もれを生じさせず、切り替えを円滑に進めるために最も重きを置かれたのは、ご利用者様との信頼関係を築くことでした。また、多職種の職員様が連携して取り組み、記録を活用してご利用者様の排泄状況を把握した上で、これまで終日テープタイプのおむつを使用されていた方であれば日中のみパンツタイプを使用される、次は終日パンツタイプを使用される、という風に段階を追って切り替え、不安感を与えないよう配慮を重ねて進められました。季節の変わり目には、「暑くなってきたから薄くて軽いのに変えましょう」などと、おすすめの仕方にも工夫をなされたそうです。

こうしてパンツタイプのおむつや布製のパッドホルダーへの切り替えは施設全体に浸透してゆき、気が付くとご利用者様の「生活の質」に目を見張る

ような変化があらわれてきたといえます。テープタイプのおむつの膨らみを隠すように丈の長い上着や厚いズボンを選ばれていた方が、おしゃれを楽しめるようになり、お部屋からあまり出なかつた方が、多くのご利用者様が集まるホールに積極的に移動して、コミュニケーションを図られている。そしてそんな様子をご覧になったご家族様が、再び自宅で共に暮らせるのではないかと希望を感じられるようになっていったのです。

在宅復帰を前提としたリハビリを中心に行う施設という特性上、介護老人保健施設では、ご利用者様が滞りなくご自宅などに移られること、移られた先の暮らしに適應できることを見据えてケアにあたる必要があります。おむつはずしをはじめとしたケアの向上は、ご利用者様が何より望まれる「ご自宅での暮らし」に戻ることを後押しする、強い力となっているのです。

## —ケアの向上を支える施設内の風通しの良さ—

大きな変革を行うには、様々なご苦労が伴うであろうことも想像されます。挑戦と継続の原動力となったのは、どのようなことなのでしょう。

「何より、ご利用者様が自信や笑顔を取り戻される様子を目の当たりにできることです。そして、施設の職員同士の間で立場や職種による壁がなく、とても風通しが良いことが、取り組みを進めるための鍵になっています。」と、徳本施設部長、手島課長、吉松介護主任が口を揃えておっしゃいます。

施設を良くするための取り組みに対して、理事長をはじめ立場の高い方々の理解が得られやすく、介護現場に多くのことを任せてくださるために実情に合った変革がなされやすい。そして現場にいらっしゃる多くの若い職員様も、先輩方のご利用者様に対する思いと熱心な教育活動を受けて皆素直に自主的に行動され、一生懸命この取り組みに参加されているそうです。

また、職員様のチームワークが良く、様々な職種の方が連携してケアにあたられることで、ご利用者様の状態の変化が見逃されず、改善も図られやすいとのことでした。

スムーズな職員様同士の関係が、スムーズなケアの向上を生み出していることが伺えます。

## —最後に—

好日苑でケアを行う上で大切にされていることを伺ってみました。「まず、ケアをする方自身がおむつを使用して排泄することを体験して欲しいのです。」と手島課長。それを受けて吉松介護主任は、「『自分自身がご利用者様だったら』という想像力を持って欲しい。」とおっしゃいます。「排泄は、人の尊厳に大きくかわる行為です。介護に携わっていると、おむつを使用することが当たり前ようになってきますが、それは決して当たり前のことではありません。ご利用者様の状態は変化しにくいという固定観念を捨て、知識や技術、観察力、そして道具をもって、ご利用者様の変化に応じたケアを行って欲しい。『一人では無理ですから、チームで。』」

